

共通プログラム

| | | | |
|-------|---|-------|---------------------------|
| プログラム | 障がい者野外アクティビティ支援 | | |
| 目的 | 障がいのある人たちと自然環境の中で野外活動を共に体験することで、対象者の理解と福祉的、教育的支援の技術を学ぶことを目的とする。「福祉とは」「障がいとは」を、自分なりのことばで定義づけることができることを目指し、体験を通してその基礎を学ぶ。 | | |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：7月に学内で2回行う予定（グループワーク等） ・本実習：夏期休暇期間 場所：みずがき山リーゼンヒュッテ（山梨県北杜市） ・事後学習：10月に学内で1回行う予定 <内容>障がいのある方1名と学生がパートナーを組み、カレー作りや川遊び、クラフトワーク、レクリエーション、キャンプファイヤーなどの野外活動に取り組む。 ・学生参加費は、1万5千円（交通費別）。 | | |
| 担当者 | 池畑美恵子、外部講師 | 実施回数 | |
| 実施曜日 | | 実施時限 | |
| 実施場所 | キャンプ場 | 受講対象者 | 障害者福祉、支援に関心のある学生 定員17名 |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|-------|---|-------|--|
| プログラム | 感覚統合療法を用いた子ども療育体験 | | |
| 目的 | 感覚統合療法とは、発達障害児のリハビリテーションや療育実践で用いられる支援技法のひとつである。子どもが遊びを通してえられる様々な身体感覚、運動感覚に着目し、それらを意図的に療育活動の中に組み込むことで、身体の使い方や人との関わり方を育てることをねらいとする。 本プログラムでは、幼児の療育実践に体験的に参加し、感覚統合療法の基本内容を学ぶことを目的とする。子どもの発達や学習の基礎を支える諸感覚の重要性を学ぶことは、特別支援教育はもとより学校教育、幼児教育すべての現場で活用できる専門性の1つになるといえる。 | | |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・3日間の連続参加プログラムとする ・事前配布資料を通して、感覚統合療法の基本的内容を学ぶ ・療育機関を訪問し、スタッフの指導のもと行動観察の視点を学ぶ ・2日目、3日目は実際に支援を受けている子ども達と運動活動や音楽活動に参加する。体験後のカンファレンスを通して子どもたちの感覚の使い方や活動のねらいを学ぶ。 | | |
| 担当者 | | 実施回数 | |
| 実施曜日 | | 実施時限 | |
| 実施場所 | | 受講対象者 | |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|-------|---|-------|-----|
| プログラム | 遊びで培う表現活動の指導法講座 | | |
| 目的 | 児童文化の基礎を学び、学生一人ひとりがそれぞれの文化活動の特徴を生かしたオリジナル作品を作成する。その作品を活用しながら遊びを広げて表現活動をする保育実践を通して、保育者・教育者としての技術力・実践力を養う。 | | |
| 内容 | 児童文化の歴史などを学ぶとともに、基本的な作品の製作・発表を通して、遊びを身につける。これらの学習を通して児童文化や児童文化財の特徴と遊びの重要性を理解する。児童文化や児童文化財の特徴や効果について、体験を通して学び、保育技術力・実践力を養う | | |
| 担当者 | 外部講師 | 実施回数 | |
| 実施曜日 | 集中講座 | 実施時限 | |
| 実施場所 | | 受講対象者 | 全学科 |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|-------|---|-------|--------|
| プログラム | 車いすスポーツの体験を通して学ぶ | | |
| 目的 | 車いすスポーツを題材として、運動経験の少ない心理的に不安が大きい障害者スポーツの導入時の指導法について習得することで、福祉・教育等の現場でのスポーツ実践ができる人材を育成する | | |
| 内容 | 車いす操作スキル指導法 障害に配慮した遊び・ゲーム・スポーツの指導論 心のバリアフリーに配慮した障害理解体験・スポーツ体験実施法 | | |
| 担当者 | 外部講師 | 実施回数 | 12回 |
| 実施曜日 | 集中講座 | 実施時限 | |
| 実施場所 | | 受講対象者 | 全学科全学年 |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|-------|---|-------|------------------------------------|
| プログラム | 自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講座 | | |
| 目的 | 保育や教育の現場では、子どもの「生きる力」を育むため、自然体験活動が重視されている。保育士や教員として、自然体験に関するプログラムを指導できる力が必要とされており、本講座を通して、自然体験活動の基礎的な知識と技能を身に付けていく。 | | |
| 内容 | 講義と実践 ①ガイダンス ②青少年教育における体験活動 ③自然体験活動の特質 ④対象者理解 ⑤自然体験活動の指導 ⑥自然体験活動の技術 ⑦自然体験活動の安全管理 ⑧試験 | | |
| 担当者 | 外部講師 | 実施回数 | 4日間 |
| 実施曜日 | 集中講座 | 実施時限 | |
| 実施場所 | | 受講対象者 | 自然体験活動に興味関心があり、資格の取得を目指したい学生。30名以内 |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|-------|--|-------|--------------|
| プログラム | ケア・アート体験講座 | | |
| 目的 | だれもが楽しむことのできるケア・アート活動について、実践を通して学ぶ | | |
| 内容 | ケアにつながるアート活動の実際について、障がいの有無にかかわらず楽しめるアート・プログラムの計画・準備・援助等の体験を通して学ぶ。アートと福祉の融合について理解し、大学関連施設とのコラボレーションを行う。 | | |
| 担当者 | 専任講師・外部講師 | 実施回数 | 8回 |
| 実施曜日 | | 実施時限 | |
| 実施場所 | | 受講対象者 | 総合福祉学部学生・大学院 |
| 申込先 | | 締め切り | |
| 備考 | | | |